



患者さん、そのご家族と よい関係を築くために

近森病院北館2階病棟

看護師長 佐野 登代子



北館2階病棟は重度介護病棟として位置付けられており、病床数28床の混合病棟です。主に内科の患者さんが多く、人工呼吸器装着中の方や心電図モニター管理などが必要な方も入室されています。

病室がワンフロアになっているため、認知症やせん妄状態の患者さんに

も目が届きやすく、すぐ対応できる環境にあります。夜間は、看護師3名とアテンダント1名の4人体制で対応しています。

他の一般病棟と比較すると重症度や介護度の高い、長期入院の患者さんも多く、定期的に医師、リハスタッフ、ソーシャルワーカー、管理栄養士、歯科衛生士など他職種との連携を図り、総合カンファレンスや退院・転院調整カンファレンスを行っています。

スタッフが力を合わせ安心して療養生活を送れる援助を行い、次（在宅・

病院・施設など）へ繋げていくことが出来るように支援を行っています。

病棟の今年度の目標として「患者・家族とコミュニケーションを図り、よりよい関係を築くことができる」を挙げています。ご家族が来棟されると笑顔で挨拶し、積極的にコミュニケーションを図り、受け持ち看護師は患者さんの状態などを伝え、不安の軽減に努めるなど、患者さんやご家族が安心して療養生活を送れるよう、またよりよい関係を築くために日々頑張っています。 さの とよこ

ハッスル研修医

10年ぶりの高知県



初期研修医 太田 雄飛

私の出身は千葉県ですが、少々訳あって高知県には高校の3年間だけ滞在しておりました。在学時にはラグビー部に所属しており全国高校ラグビー選手権大会に出させていただくなど本当に充実した3年間を送らせていただきました。

高知県を離れて10年、再び思い出の地に来て研修生活を送れることを日々誇りに思いながら研修に励んでいます。まだまだ至らない点が多く時に辛くなり、逃げ出したくなったりすることもあった最初の3カ月間でした。支えてくださった先生方、コメディカルの皆さんをはじめ近森病院の医療スタッフの皆さんに心より感謝いたします。

今後は、少し慣れてきた研修生活の合間に将来の自分の専攻を考え、それに沿った勉強も少しずつしていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

おおた ゆうひ

再び、高知県の医療



近森 正幸

以前、今回の診療報酬改定で、高知県の医療はどう変わらざるを得ないかについて2回書いた。が、改定から4カ月が経って、医療の流れに明確な変化が始まっている。

改定の特徴は、消費税増税の再延長により、医療費を増やせる原資が枯渇していることから、きわめて厳しいものになっている。全体で1%ほどの減額と、それ以上に大きいのは、診療報酬の算定要件で入院できる患者さんが制限され、稼働率の低下が急速に起こっていることである。

急性期病院の在院日数と在宅復帰率、重症度、医療・看護必要度を満たす患者さんが25%以上というルールによって、重症の患者さんを早く

治して地域に帰っていただくことが強く求められている。つまり、病状の落ち着いた長期の患者さんは急性期病院には入院してられなくなり、一般急性期病院の空床が増えている。回復期の病院は在宅復帰率や重症患者割合、改善率で、重度の障害がある患者さんをリハビリし、速やかに地域に帰っていただくアウトカムを出さなければ、やっていけなくなっている。慢性期の病院も医療区分の高い患者さんを8割以上入院させなければ存続さえ難しくなっている。医療区分の高い患者さんは医療やリハビリの機能を有する病院に集まり、医療区分の低い患者さんは介護施設やサ高住などの施設に移行、慢性期の病院の空洞化が急速に進んでいる。

これまでの2、3年で徐々に変化があり、今回の診療報酬改定で急激な変化がもたらされている。全国平均の2倍の病床数と3.5倍の療養病床を抱える高知県は、人口が少なく患者数も少ないことから2025年から50年の日本の医療のあるべき病床数に近づいているように思われる。

人口当たり世界一の病床数を誇り、町のいたるところに病院がある高知の街並みも、これから大きく変わっていくのではないかと。

理事長・ちかもり まさゆき

3D Imaging Solution システムについて

～困難だった鏡視下手術での奥行きの評価が容易になり、手術時間の短縮と手技の安定化につながります～

近森病院外科

科長 辻井 茂宏



日本で初めて腹腔鏡下胆嚢摘出術が行われたのは1990年のことです。この年、スーパーファミコンが発売され、一大ブームとなりました。はまった人も多いのではないのでしょうか？

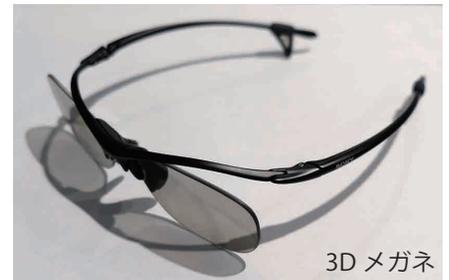
それはさておき、26年が経過した現在、鏡視下手術はその適応をどんどん拡大し、多くの癌の手術でも適応と

なっております。当院でも、胆石、虫垂炎、気胸、ヘルニアなどの良性疾患から肺癌、胃癌、大腸癌といった悪性疾患まで多くの手術が鏡視下に行われており、その割合も年々増加の一途をたどっております。

鏡視下手術は傷が小さく、術後の回復も早いため、「患者さんにやさしい

治療」といわれておりますが、外科医にとっては開腹手術と比較し高い技術力が要求され、決してやさしいとは言えませんでした……。

しかし、今回の本システムの



3Dメガネ

導入によって、以前は困難であった奥行きの評価が容易になることで手術時間の短縮と手技の安定化につながっており、鏡視下手術は「患者さんにも外科医にもやさしい治療」となってきました。

手術機器の進歩には驚くばかりですが、我々外科医もより一層進歩し、さらに「患者さんにやさしい治療」を追求していきたいと思っております。

つじい しげひろ



リレー エッセイ

高知の良さをあらためて知る

訪問看護ステーションちかもり
看護師 林 良香



学生時代の友達がよく夫をおいて関東から遊びにきます。数十年毎年の者や、年に2～3回やって来る者も。みんな「私に会いたくて」と言ってくれるのですが、高知の食と自然が好きようです。そんな彼女たちが先日東京で集まった際、恵比寿の安兵衛や銀座の長宗我部で食事をし高知話で盛り上がった、と聞き笑ってしまいました。

これまで桂浜、四国カルストなどは勿論のこと、マニアックな滝や、長宗我部、香宗我部などをテーマに城跡、お墓等を見て周ったこともあります。もう案内する所はないと思っていましたが、同僚から土佐清水の



唐人駄馬を紹介され、今年も遊びに来た友達と行ってきました。梅雨の時期で連日雨続きの中、自称晴れ女の私達の力は強く、この日は晴れ！唐人駄馬はどうしてこんな山に大きな岩がこの様な形であるのかと思わせる場所で大きな一枚岩を登ると太平洋が望めパワースポットであることを感じさせました。

この後唐人駄馬を下って白ばえの竜宮神社へ足を延ばしました。褐色



の花崗岩の海岸はスケールが大きく、自然の力を感じながら歩いて行くと海に突き出した岩の上に赤色の鳥居があり、圧巻の景色でした。夜は土佐清水の新鮮な魚を食べ、今回も友達と共に高知を満喫しました。今回も友達は高知産食材を買い込んで、帰って行きました。さて、今度はどこを案内しようかな。

はやし よしか



ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

2017年度 看護職員
近森会グループ 採用試験

私たちと一緒に看護しませんか？



8/6 11/26 2/24

※詳細は近森会のウェブサイトに掲載。
問い合わせ：社会医療法人近森会看護部長室
メール：kango@chikamori.com

職員対象 第59回
チカモリ・シネマクラブ

人の動き 敬称略

おめでとう

編集室通信

ご縁があって参加させていただいている月1回のワイン会。もう長年と言って良い私の心のオアシスです。ワイン好きという共通点だけで、年齢、性別、職業も違う同士が気心ゆるして語りつつ過ごす時間、パンとチーズは至上的ご馳走に、ワインは飲む宝石に。去年は父の介護でお休みしておりました…平穏な日常にも、感謝をこめて乾杯。 ひよん

図書室便り

2016年6月受入分

- 医療現場の英語辞典／山田政美（他編著）
 - 平成28年度診療報酬改定「排尿自立指導料」に関する手引き／日本創傷・オストミー・失禁管理学会（編）
 - 平成27年版新・看護者のための精神保健福祉法 Q&A／日本精神科看護技術協会（編）
 - 看護管理者のための医療経営学第2版／尾形裕也
 - 認知症・超高齢者の看取りケア実践現場でよくある22事例／島田千穂（他著）
 - 別冊・医学のあゆみ大腸癌診療 Update／渡邊昌彦（編）
 - 日本医師会雑誌，第145巻特別号(1). 生涯教育シリーズ90アレルギー疾患のすべて／小川郁（他編集）
 - 精神療法増刊第3号精神療法を教え伝える、そして学び活かす／中村伸一（他編）
 - 老年精神医学雑誌 27巻増刊号II 第31回日本老年精神医学会プログラム・抄録集／斎藤正彦（他編）
 - Emergency Care 2016年夏季増刊救急での動きかた・患者のみかた／芝田里花（編）
 - Nursing BUSINESS 地域包括ケア時代の看看連携実践事例集／ナーシングビジネス編集室（編）
- 《別冊・増刊号》
- 別冊・医学のあゆみ粘膜免疫 UPDATE／大野博司（編）

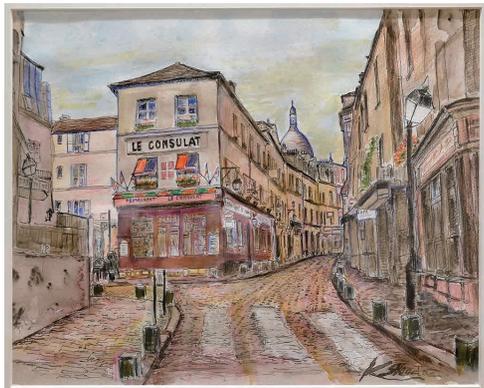
2016年6月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	19,386人
新入院患者数	1,013人
退院患者数	1,008人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	13.81日
地域医療支援病院紹介率	64.83%
地域医療支援病院逆紹介率	132.69%
救急車搬入件数	522件
うち入院件数	279件
手術件数	459件
うち手術室実施	324件
うち全身麻酔件数	180件

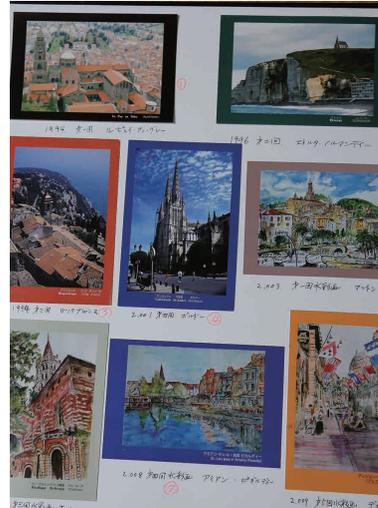
●2016年6月 県外出張件数●
件数 79件 延べ人数 165人

「ときを経た壁は、自分で色を創る」

▶ 玄関ロビーに
▼ フィレンツェ
の街並み



◀ 自宅で妻の保子さんと談笑する馨さん
▼ 2007年以來、年に一度開いてきた個展。最初は写真展から始めた。今年は、11月17日から22日まで、第10回池田馨水彩画展を帯屋町のギャラリー邦で開催予定



風景画のきっかけは妻の名案！

「馨」は明治中期の初代外務大臣、井上馨からとった。命名した父上とは3歳で死別したため、聴かされただろう意図は、記憶に残っていないという。

とはいえ、新校舎の完成した近森病院附属看護学校に飾られている風景画の作者として、ここに登場する馨さんの来し方は、国際色豊かというのか、日本の片隅で、身過ぎ世過ぎに追われる毎日がボヤけるようなスケールを持ち、父上が夢に描かれた「馨そのもの」が見えるようだ。

池田馨物語はまず、絵で描いたようななどでもいうのか、「立派な企業戦士」から始まる。早稲田大学入学のために上京。卒業後、日本の高度経済成長時代を立派な企業戦士で過ごし、第一次オイルショックの直前、昭和48年の春、家族で帰郷することになる。

昭和4年創業の家業の味處(料理屋)を継ぐためだったが、「高知に帰れば海外旅行ひとつ難しくなるのでは」という妻の名案！で、フランス、スイス、イタリアを巡る三週間の家族旅行に出発。溢れるほどに溜め込んできた馨さんの「絵心と呼び覚ますきっかけ」になったのが、いまから思えばきっと、この家族旅行でヨーロッパの風景を体験したことによるのだろう。東京時代、趣味の油絵で「佐伯祐三おぎすたかのりや荻須高徳に

傾倒して、壁や屋根ばかり描いていた」という馨さんは、彼らの題材の街並みを歩き、「(仏画家の) ユトリロがそこに居るような錯覚さえ覚えた」そうだ。

その目は確かに、企業人でも料理人でもない、すでに「画家そのもの」だったのだろう。「印象派の画家が描いた時代に想いを馳せ、風景を体験する」というフランス美術行脚が、以来、帰郷して以降もずっと続くことになる。

古稀の記念に水彩画へ

思い返せば小学校時代にお城のそばの藤並公園を描いた絵が一等賞になり、ずっと壁に飾られていて誇らしかった思い出があるそうだし、郷土の美術の英雄、横山隆一先生の義弟を「自身の父親と慕う」ような濃密な関わりを持った時期もあった。そんな影響もあってか、88歳で88点、90歳で90点の水彩画を描かれた横山先生に倣い、「70歳になった記念に油絵から水彩画に切り替えよう」と、絵筆にもさらに情熱が籠るようになってきた。

一方、大学時代の先輩から誘われ、パリの古城を模様替えしたホテルの会員権を買ったことがきっかけで、以来、「パリの田舎に取り憑かれ」現象が起る。高知日仏協会の副会長を務め、すでに40年に亘って高知とフランスの文化の橋渡しに努めてこられた馨さんの動静は、地元紙やWebでもしば

しば報道されている。

美しい村へのスケッチー人旅

フランスの都会ではない、ゴシック以前の古い建築物を訪ねて田舎へ。定期的に10日余りのスケッチー人旅に出るとか、世界のワイン通に贈られる「ワインの騎士」の称号を、高知でいち早く受けられたとかいう話も新聞に載っていた。

鉄道の駅さえなくて通り過ぎてしまいそうな、小さな田舎街にこそ「観るべきもの、学ぶべきものがあると、フランスに通えば通うほど、その想いを強くする」と、ボソツといわれる馨さん。だからといって、文化の伝道者でありたいとか、民度の底上げをしたいとかいった肩肘を張るイメージにはならない。

「ワインの騎士の称号、メリットは何もない(笑)。でも、ワインで交友は広まったし、やっぱりまず何でも気軽に楽しみたいわねえ」と、眉間の皺を解いて嬉しそうにニコリ。

日本の小さな村の売り出し方とか、古いものの残し方とか、持論には底なしの余裕が窺える。

漏れ承ったところ、過去帳で300年以上遡れるという池田家は、美術関係に造詣の深いお家柄らしいから、遠く引き継がれるDNAが何らか関係している、のだろうか……。